

I お仕事体験の概要

1 お仕事体験塾の経緯と概要

お仕事体験塾は、2015年まで柏崎市青年会議所の事業として2年間実施した後、2017年から任意のお仕事体験塾実行委員会を組織して柏崎市教育委員会と連携して官民が一体となって開催している。本年度で連続6回目となった。

若者が柏崎から離れていく現状から、地元にある企業と協力し、小学生に職業体験の機会を与えることで、職業観及び勤労観を醸成させ、未来の柏崎の活性化のために自ら貢献しようとする志を抱かせることを目的に「小学生お仕事体験塾」を開催している。本年度は、8月18日（日）に柏崎市文化会館を会場に開かれ、体験ブースは49、児童数約708人、引率の教師、保護者、ボランティアスタッフ、参加事業所を合わせると1500人の規模で開催した。

お仕事体験塾実行委員会は、地元の企業経営者、民間企業従事者、市内教員、教育委員会職員の16名で組織し、共通の理念として「ふるさとに誇りと愛着を持ち、夢と希望に向かってたくましく生き抜く児童の育成」を目指している。さらに、出店事業所には、お仕事体験塾の趣旨の徹底を図る目的で、事前説明会（7月4日）を開催した。説明会では「事業所間で力を合わせ、柏崎の未来の子どもたちを輝かせよう」という願いから、「仕事の大切さを伝える。働く工夫について伝える。各企業の成功体験を伝える。柏崎で働く喜びを伝える。」を合い言葉として取り組むことを確認した。

【本年度新たな取組】

○ 中、高、大学生ボランティアと出店事業所の交流会

これまでお仕事体験塾は、小学生に働くことの意識を高め、将来の柏崎を担う人材育成に寄与してきた。

本年度、新たな取組として「お仕事体験塾」終了後に「中、高、大学生ボランティアと出店事業者との交流会」を開催した。中、高、大学生が勤労観、職業観について直接事業所の方から聞く機会となり有意義な取組となった。

交流会で学生ボランティアから「仕事で大切にしていることはどんなことですか。」の質問に、花屋は「お客さんへの笑顔です。ただお花を買う人への笑顔だけでなく贈られる人が笑顔になってもらえるコミュニケーションを大切にしています。」の回答に、生徒、学生は働くことの新視点を獲得する機会となった。

小学生の取組から、中、高、大学生と途切れのない人材育成へと一歩前進できた。

○ 障がいがある児童の体験支援

これまで障がいがある小学生が体験することが難しい場合があった。本年度、障がいの状況に応じて体験可能なブースへ実行委員会が引率して体験できる取組をスタートした。本年度は参加者が少数であったが、車椅子で仕事を体験する児童もいて今後充実していきたい。出店事業所にとっても、障がいの状況に応じて就業の可能性を知る機会となった。

2 お仕事体験塾のねらい

体験活動を通じて、自分の職業適正に気づき柏崎で働こうとする意欲を高める

ねらい1：地元の事業所が連携して未来を担う柏崎の子どもたちの人材を育成する割を果たす。さらに、地域における企業イメージを高める。

ねらい2：実際の職業体験を通じて望ましい勤労観、職業観を身に付け生涯にわたり生きる力を育む。

ねらい3：職業体験で出会った様々な業種や人々との触れあいから、ふるさと柏崎の愛着と誇りを育てる。

3 お仕事体験塾の実際

(1) 目的

柏崎の教育大綱の目標につながる「ふるさとに誇りと愛着を持ち、夢と希望に向かってたくましく生き抜く児童生徒」を育むため、ふるさと柏崎の魅力とそれを語る人々の生き方に学び、柏崎の未来の活性化を図る人材を育成する各種キャリア教育を推進している。

そのねらいを達成するために、教育委員会と任意教育団体「お仕事体験塾実行委員会」を組織し、趣旨を生かした「小学生お仕事体験塾」を開催した。

(2) 主催 お仕事体験塾実行委員会

(3) 開催 令和元年8月18日(日)

・体験時間 9時45分～16時

開会式9時45分～

記念撮影16時～

・ボランティアと出店事業者交流会

16時30分～17時30分

(4) 会場 柏崎市文化会館

アルフォーレ全館及び駐車場

(5) イベントの規模



【開会式の様子】

・体験児童数 708名

・出店事業所数49ブース (出店関係者500名以上)

・ボランティア 中学生23・高校生40・大学生19社会人2 合計84名

教職員・教員ボランティア 15名

青年会議所10名 学校教育課7名

・引率した保護者、各ブースの企業関係者、ボランティアを含めると今回のイベントは1,500人を超える規模で開催した。

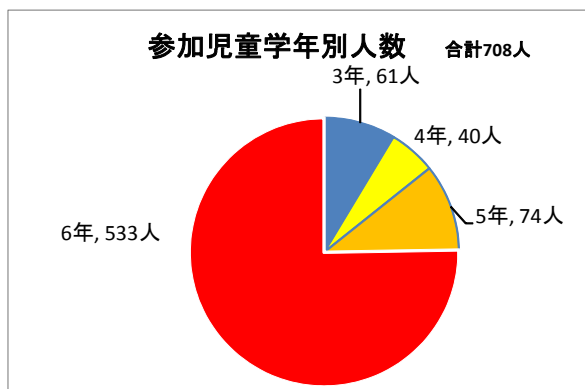
柏崎全6年生の80%が参加

(6) 参加児童数

本年度参加児童の総数は708名である。その内訳と学年別参加人数はグラフの通りであった。

6年生参加者の533名の内、団体参加柏崎小、比角小、枇杷島小、半田小、剣野小、新道小、日吉小、田尻小、北鯖石小、荒浜小、高柳小の11か校が団体で507名(6年)が参加した。

この他に個人参加の6年生を加えると533名が参加し、市内の全6年生665名の約80%が参加した。



II お仕事体験の結果 (アンケートより)

将来柏崎で働きたい 91.0%

1 将来来柏崎で働きたい

グラフは、子どもアンケートの設問「将来柏崎で仕事をしたいと思いましたが。」で「働きたい」「働かない」を選択した人数で表している。

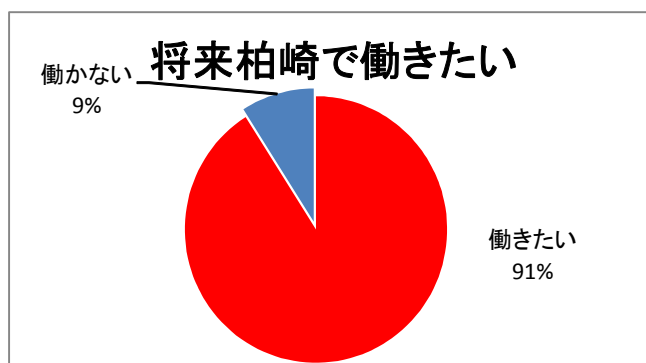
柏崎で将来仕事をしたいと感じている児童は**91.0%**であった。

地元の柏崎で仕事をしたいと感じている児童が全体で90%を越えたことは、お仕事体験塾が目指す「体験活動を通じて、自分の職業適正に気づき柏崎で働こうとする意欲を高める。」のねらいが達成されたと考えられる。

体験を通して「柏崎には様々な職業があること」「柏崎には目指す仕事があること」を知るきっかけとなった。さらに、働くことの楽しさや大変さを実感として体験できたことも大きな成果といえる。また、「柏崎で役立ちたい。元気にしたい。」という記述も多く見られた。

「柏崎にはたくさんの仕事があることが分かり、わざわざ都会に行かなくて良いことが分かった。」またある子は「このお仕事体験を毎年続けていけばみんなが柏崎の良さに気付きすごいことになる」と述べている。

このように郷土を愛する意識にも目が向けられている。少子高齢化が進む柏崎市にとって、



イベントで知った様々な業種や人々との触れあいが郷土への愛着に繋がり、将来柏崎で働きたいという意識を高めたことにお仕事体験塾開催の意義がある。

体験後、事後指導として団体参加児童から出店事業所に感謝のハガキを作成して届けた。感謝のハガキの文面から、小学生段階から働くことの意味や意義に気付き、自分の生き方に繋げる意識が生まれキャリア教育の基盤を培うことにつながった。さらに、体験させて下さった事業所の方への感謝があふれ柏崎の未来を拓く意欲も伺える内容であった。

児童が作成した出店事業所感謝のハガキの一部

- 体験できなかったブースも、いろいろ廻ってみることができ、器用になったような気がします。
- 私は、お仕事体験からやはりお母さんと同じ仕事に就きたいという思いが強くなりました。こんな思いにさせて下さった体験をさせてくださった方に感謝します。
- 体験しているとき教えて下さる方に「上手だね」「私よりうまいね。凄いね」とほめてもらいうれしくなりました。体験の時おしえてくださる先生となかよしになれてとても楽しかったです。
- 6月に修学旅行でキッザニアに行った時は、楽しいお仕事で思い出ができました。今日のイベントではさらに本格的で、ぼんやりとですがいつか自分が仕事に就くことへの自覚ができました。
- 柏崎には親切な人がたくさんいて、丁寧に詳しく教えていただきました。私が将来働きたい美容師の仕事が体験でき楽しく仕事ができました。私の夢を叶えるために頑張りたいと思いました。
- 働いている人から教えていただいたことで忘れられない言葉があります。それは、人の役に立つ仕事をしたいと言うことです。人の役に立つことは「やりがい」につながると言うことでした。
- 私は、今日の体験から笑顔で人と接することの大切さを学びました。教えて下さる人は、皆が笑顔で教えて下さいました。ありがとうございました。
- 柏崎のために働いている姿がかっこよかったです。これからは私たちが柏崎のために頑張りたいと思いました。
- お客さんを笑顔にすることが大切だということを知りました。私も笑顔にすることを目標にします。

体験回数の充実 4. 2回から 5. 6回へ

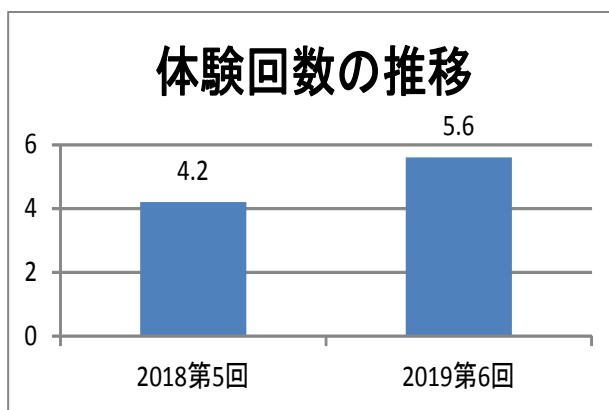
グラフは、本年度団体で参加した6年生児童の昨年度（2018）の体験回数（4.2回）と本年度（2019）の体験回数（5.6回）を表している。

昨年度の反省で、団体参加の学校からせつかくの機会である体験回数を多くしてほしいとの要望が寄せられた。本年度は参加対象を3年生以上（昨年度1年生から）にした。その結果、参加児童数は100名ほど減少したが、一方で一人一人の児童の体験回数が1.4回増加した。

このことで参加児童の体験に関する充実感に結びついた。また増加の要因とし

て出店事業所が45ブースから49ブースに増えたことが体験回数の増加につながった。

さらに、本年度4回以上体験した児童に賞賛のシールを配布したことも、一人一人の体験意欲が高まり体験数の拡大につながったと推察される。



以上の結果から次のような成果が認められた。

- 地元の企業の人々との触れあいを通じて「柏崎には様々な職業があること」「目指す仕事があること」を知るきっかけとなった。
- 職業体験で出会った様々な人々との触れあいは、社会の構成員として共に生きる心を養い、郷土への愛着と誇りとなり柏崎で仕事をしたいと願う意識が高まった。
- 柏崎市6年生全体の80%が参加したことから、本体験活動が市全体のキャリア教育の基盤となっている。
- 一人一人の体験回数が増加したことで働くことへの意味や価値に気付き、生き方を考え充実感につながった。

Ⅲ 出店事業所、業種の郷土への貢献

出店事業所が協力して、柏崎の未来を担う人材育成

1 出店への働きかけ

本体験を通して、出店各事業所ならが地域を活性化する意識が育つことを願っている。

7月4日（木）に行われた出店事業所の説明会で、「事業所間で力を合わせて、柏崎の未来の子どもたちを輝かせたい」という願いから、次のことを確認し共有し合った。

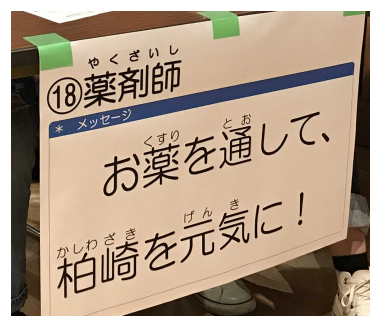
- ・仕事の大切さを伝える。
- ・働く工夫について伝える。
- ・各企業の成功体験を伝える。
- ・柏崎で働く喜びを伝える。



【出店事業所説明会 7/4】

2 各出店事業所が子供たちに目指した柏崎への想い

子どもたちは「柏崎で仕事をしたいと」考える割合が91.0%と非常に高い。その理由として「多くの職業が体験できた。」「各企業の人々が、優しく丁寧に教えてくれた。」「地元企業に親しみが生まれた。」「本格的な仕事ができ役に立った。」と、記述している。このように児童は、参加



していただいた企業との触れあいを通して柏崎を愛する心情や勤労観・職業観が育っていったと推察される。

このことに結びついたのは、下の表にあるように各事業所が「お仕事体験」を通して子どもたちに伝えたい想いを各ブースの入り口に掲示して取り組んだことにある。

表、出店事業所の体験児童数と「お仕事体験を通して子供たちに伝えたいメッセージ」

No	職業名	体験者数	メッセージ
①	調理士（料理人）	35	好きこそもの上手なれ。好きなこと得意な形で仕事に！
②	製造業	30	いろんな人の、いろんな個性が、まちを彩っています。
③	司法書士・行政書士	33	自分で作った書面で地域に貢献しよう！
④	エステセラピスト	89	マッサージ、メイクで明るい未来をつくろう。
⑤	美容師	183	柏崎を世界一「美しい」心のまちへ。
⑥	医師	30	医師の仕事、一緒にやってみよう。
⑦	機械工	92	「ものづくり」を通して柏崎の明るい未来をつくる。
⑧	保育士	96	子どもたちの輝く笑顔と元気のお手伝い。
⑨	信金職員	52	柏崎地域に必要とされる金融機関を目指して。
⑩	郵便業	79	あなたの思いを私が届ける！
⑪	電力会社	92	安全な発電所をめざします！
⑫	障がい児者支援員	96	柏崎に住む誰もが幸せを感じる街にしていきたい！
⑬	教師	25	「未来を担う子どもたちを育てる」それが教師の仕事です。
⑭	弁護士	59	ルールや正義の大切さを学ぼう。
⑮	税務職員	26	安心してくらすために「税」を知ろう。
⑯	フローリスト	57	花贈りを通して心のやさしい笑顔のあふれる未来に。
⑰	和紙職人	47	和紙を使って、いろいろ楽しみましょう。
⑱	薬剤師	53	お薬を通して、柏崎を元気に！
⑲	和菓子職人	98	お菓子を通して、幸せのお手伝いをいたします。
⑳	建築士	74	発想力で夢をふくらませよう！
㉑	板金職人	537	幸せな家族の住む お家の力になります！
㉒	システムエンジニア	88	ITにふれ、一緒に柏崎の明るい未来をつくりましょう！
㉓	生け花先生	32	生け花を楽しもう！
㉔	ビューティーサロン	24	ハサミを通して、みんなをキレイに！
㉕	雑貨屋さん	99	心のこもったプレゼントが、いっぱい柏崎に。
㉖	介護士	66	みんなのふだんのくらしをしあわせに。
㉗	バーテンダー	26	自分の好きな職業を探して欲しいです。
㉘	ネイリスト	36	いろいろなお仕事体験を楽しんでください。
㉙	観光案内人	34	身近な柏崎の魅力を多くの人に伝えましょう。
㉚	縫製職人	61	お客様が笑顔になれるお店をめざします。
㉛	ラジオパーソナリティ	40	人前で大きな声でしゃべってみましょう！
㉜	自然ガイド	43	自然が好きになったら、それを他の人に伝えていこう！
㉝	介護タクシー運転手	72	外出が難しい方のおでかけをサポートします。
㉞	自衛官	58	みんなを守り、柏崎を守る。
㉟	警察官	15	安心できる柏崎をつくろう。
㊱	消防士	17	訓練を重ねた消防士が柏崎の安全を守ります。

⑳	ガス屋さん	39	安心安全な快適ガスライフを届けよう！目指せガスのプロ！
㉑	農産物検査員	22	人と自然との関わりを大切に、柏崎の農業を盛り上げましょう。
㉒	クリーニング師	29	「シミ抜き」を通して、もう着られない！を解決します！
㉓	石工職人	39	物づくりの楽しさを伝え、未来の職人になってほしい。
㉔	塗装職人	38	建物の「きれい」と「あんしん」いつまでも。
㉕	大工職人	72	柏崎の物づくりの楽しさを伝えます。
㉖	左官職人	70	ものづくりの難しさ、楽しさを感じてください。
㉗	電気工事士	167	柏崎の未来を明るく照らすのは君たちだ！
㉘	自動車整備士	67	クルマの良い所、悪い所を一緒に見つけよう！
㉙	土木技術者	113	安心・安全な生活を支えています。
㉚	建設技能者	200	地域の安心安全を守り、ふるさとをつくります。

未来を担う柏崎の子どもたちの人材育成」について地元事業所の意識の変化

3 各企業からのアンケート結果

出店事業所に今回のイベントに参加しての感想を聞いた。「今回のイベントに参加して良かったですか。」では、100%の企業から「大変良かった・良かった」の肯定的な評価をいただいた。

次の表は、出店事業所へのアンケートの一部である。

○ 担当のブースで、子どもたちの「柏崎への郷土愛」を育めたと思いますか？（昨年）

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
20% (13.2)	73.3% (65.7)	6.7% (21.1)	0

※昨年度の比較から「柏崎への郷土愛を育てたい。」の意識が高まってきている。「あまり思わない」が極端に少なくなり、郷土愛育成の意識が高くなってきている。

【肯定評価の意見の一部】

- ・活動と柏崎を愛する気持ちと関連づけて考えさせようとした。
- ・和紙染めの楽しさを知ってもらえ、地域愛につなげることができた。
- ・地元企業の役割について分かってもらった。
- ・子どもたちに少しでも未来の柏崎について考える機会にしてほしい。

○ 担当のブースで、自分たちの姿を見せることにより、子どもたちへ「働くこと」に対し想いを伝えられたと思いますか？

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
75% (18.4)	23% (73.7)	2% (7.9)	0

【肯定的評価の記述の一部】

- ・安心安全を守る仕事について働く側の気持を理解してくれた。
- ・医者として施術する立場、患者の立場の両方体験でき理解してもらえた。
- ・情熱や笑顔の大切さを伝えられた。
- ・すぐに仕事がうまくなるのではなく徐々に上達するこが、仕事の難しさであることを伝えられた。
- ・職業への選択肢が増えてほしいことを伝えた。

○ 出店事業所の感想の一部

- ・ 仕事体験塾への参画を通しての社会貢献つながってよかった。
- ・ 子どもたちに想いを伝え、将来に向けた産業界を担う人材育成につながった。
- ・ 職場の活性化につながった。(職員は事業所内と違う姿が見られた驚いた。)
- ・ 地域・学校との関係づくりができた。
- ・ 地域における事務所の認知度が高まった。
- ・ 多くの子どもたちが参加してくれた。子供たちに伝えることで私たちも学ぶことがあった。
- ・ 子どもたちの一生懸命な姿を間近に見てこちらが有意義な時間となった。
- ・ 今年は出展者と参加者のバランスが良かった。

以上の結果から出店事業所は次のような成果が認められた。

- 出店事業所は、子どもたちに柏崎への郷土愛を高め未来の柏崎を拓く人材育成に寄与できたことに満足している。
- 自分たちの仕事を知ってもらえ、この仕事に就きたいと思う子がいたことで、それぞれの事業所は社会貢献や事業所の認知度拡大、人材確保につながったと意識が高まったと感じている。
- 参加企業にとっては、「地域と一体となって子どもを育てていこうとする地域貢献に寄与し、企業イメージ向上に繋がったことで満足する事ができた。」と述べている。

IV ボランティア協力

中学生を含めたボランティアの充実から人材育成

本年度、出店事業所が49ブースと増えた関係で、市内中学校に生徒のボランティアを依頼した。その成果として、新たに募集した中学生ボランティアを行い23名が参加してイベントの充実を図ることができた。さらに、高校生、大学生のボランティア数も増え、教員ボランティア・青年会議所のボランティアを含め充実が図られた。

特に中高大学生ボランティア充実の背景には、各段階でのきめ細やかな協力への働きかけと、お仕事体験塾の地元への認知度が高まったがあげられる。さらに、何よりもお仕事体験塾のボランティアとして参加することで職業選択に関して学ぶべきものがあることが大きい。

さらに、教員ボランティアも15名(昨年13名)と増えた。小学生を対象としたイベントは様々なトラブルが発生することがあるが、本年はスムーズな運営が図られた。

1 ボランティア依頼の概要

お仕事体験塾は、出店事業所協力とボランティアによって成り立っている。

本実践では、その基盤として柏崎社会福祉協議会のサマーチャレンジボランティアと連携して取り組んでいる。

また、お仕事体験塾実行委員会では、市内全中学校・高等学校・新潟産業大学にチラシを配布して募集した。結果として、以下の内訳の通り132名のボランティア協力につながっている。

【ボランティア等の内訳】 合計132名

- 一般ボランティア 中学生23・高校生40・大学生、専門学校生19、社会人2
- 教員ボランティア15 ○青年会議所 10 ○実行委員会 16
- 学校教育課支援 7

2 当日ボランティアの概要と主な流れ

① ボランティア打ち合わせ

朝9時より、ボランティアとの打合会を開催し、日程、仕事内容、運営上の留意点について確認し周知を図った。

② 教員ボランティア

昨年度、協力いただいた方や新規の方を含め15名の教員から協力いただいた。



【ボランティアとの打ち合わせ】

小学生お仕事体験塾ボランティアアンケートより

○ お仕事体験塾のボランティアをしてみようと思ったきっかけ

- ・このボランティアに参加して、何か将来的に使う情報を得ようと思った。
- ・去年やってみて楽しかった。小さい子が好きだから。
- ・チラシを見て、自分も去年体験する側だったから体験する人を支えることをしてみたかった。
- ・建築士という職業に興味をもっていたのでボランティアしたいと思いました。
- ・柏崎にある職業を知るとともに自分の進路に役立てたいと思った。

○ ボランティア活動を通して感じたこと・学んだこと

- ・柏崎にたくさんの仕事があることを知った。(多数)
- ・子ども達や地域の方々とお話などをして、人の為に活動をする大切さを改めて実感した。
- ・柏崎は人口も減ってきているけど、たくさん魅力がある仕事があって皆さん活気がある。
- ・あいさつなど明るく対応することが大切だと思ったまた地域で協力するからこそこういった活動が出来ているのだなと感じた。
- ・身近で将来就きたい職業を見学させてもらうことができて良かった。
- ・実際に体験したときには、よく分からなかったけど、受付してくれるボランティアの方がいないとシステムが上手く回らないんだなと感じました私のように経験する側として来ていた子が中高年になってボランティアをしてくれるといいなと思いました。
- ・一緒に活動したボランティアさんと初対面ながらに多く関わることができ、ボランティアさんが大学生だったこともあり、高校生の私はとても勉強になり楽しかったです事業者さんからもラフな感じで関わってもらえてうれしかった。
- ・何かをすることは一つ一つ大変なことだと思ったり、ボランティアをされていて、お話を聞いたりしたりとても楽しい時間を過ごしていました。
- ・柏崎で働いてくれる若者を増やすために、小さな子供達に体験してもらうというアイデアがいいと思ったし、ボランティアの高校生や中学生もいて、柏崎が一体になって頑張っているイベントだと感じました。
- ・男女関係なく年齢の幅広い人たちとたくさんコミュニケーションをとることができよい経験になりました初めてのことで朝は焦って仕事がスムーズに進まないときもありましたが、なんとか中学生のボランティアの人と協力して受付することができました。学校で学べないような職業や進路の話を学べてよい体験になりました。
- ・今回ブースを出店してくださった方とうまく会話ができただろうか不安です。今の自分自身に足りない事が何なのかがよく分かる良い機会になったと思います。また実際に働いている方から様々な話を聞いたことはとてもためになりました。

各学校の教員ボランティア、引率者から寄せられた感想は次の通りである。

【教職員ボランティアの感想】

- ・ 運営がスムーズで、子どもにとって炎天下でもストレスフリーで快適に様々なお仕事を体験できていたように思いました。
- ・ 体験してみたい仕事が多くあり、こんなに恵まれた環境が用意されている柏崎の子どもたちをうらやましく感じてしまうほどでした。ぜひ来年からも、より多くの子どもたちに貴重な体験をさせてあげたいと思いました。
- ・ 真夏の屋外の暑い中の体験でしたが、興味のある仕事にどんどん向かっていく姿が、見ていて大変頼もしかったです。
- ・ 何を体験しようか迷っている様子の子どもたちに、「あそこでは、こんな体験ができるみたいだよ」と声を掛けると、「やってみようかな」と向かい、体験が終わると笑顔でブースから帰る姿も多く見られました。柏崎市のお仕事体験塾のすばらしさに感動しました！

以上の結果からボランティアの方から次のような成果が認められた。

- 学生ボランティアは、柏崎には様々な業種があることを知り将来つきたい職業のイメージを膨らませることができた。
- ボランティア活動から地元の事業所との触れあいから働くことの大切さや柏崎のよさについて学ぶ機会となった。
- 教員ボランティアは、体験を終えた子どもたちの達成感に満ち溢れた笑顔を確認し本体験活動の価値に気づきキャリア教育の大切さを伝えていきたいと気持ちを新たにしました。

V 学生ボランティアと事業所との交流会

柏崎市では、人材育成が喫緊の課題です。

これまでの、小学生お仕事体験塾の成果として、小学生段階では「柏崎への愛着から将来柏崎で働きたい」の意識が高まってきている。

本年度新たな試みとして「中、高、大学生ボランティアと出店事業所の交流会」を開催して、中、高、大学生へと途切れのない人材育成、及び郷土愛を育む取組を開始した。

1 ボランティアと事業所との交流会の概要（新規の取組）

- ・ 日時 令和元年8月18日

16時30分～17時30分

（お仕事体験塾終了後）

- ・ 会場 柏崎文化会館アルフォーレ マルチホール

- ・ 参加者の概要

中学生13名、高校生9名、大学

生5名の27名が参加。23の事業所が参加。

- ・ 内容 参加事業所からの説明の後、参加者から様々な質問がなされた。



【学生ボランティア交流会アンケート】 参加者 27名

1 事業者との交流は、いかがでしたか。

大変良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
20	7	0	0

2 「小学生お仕事塾」のボランティアや事業所との交流をとおして、あなたの「柏崎を愛し、将来柏崎で働きたい」という気持ちが高まりましたか。

とても高まった	高まった	あまり高まらなかった	高まらなかった
7	20	0	0

【参加者の感想】

- ・様々な職業の方の話をたくさん聞いた。今後の希望職種の一つに含むことができた。(5)
- ・知らないことが交流会をとおして知れた。それぞれの魅力があったので、楽しかった。(3)
- ・今まで聞いたことのない職業も質問をとおして理解することができた。(5)
- ・やり甲斐とかエピソードとかを聞いた。こういう機会にしか聞けないことをたくさん聞いた。
- ・地元の大人が働いているときに考えていることや、仕事に対する気持ちを知ることができてよかった。
- ・その職業に対する気持ちがよく分かった。
- ・各事業の仕事内容を詳しく知ることができた。
- ・事業は分野が違っていても、連携していることが分かった。
- ・いろいろな職に就いている人から、やり甲斐や職に就いたきっかけなど、とてもいいお話を聞くことができた。
- ・事業者の方々がとても丁寧に質問に答えてくださってうれしかった。
- ・インターネットで調べるより、確かな情報を得られた。
- ・自分の考えていなかった分野の話も聞くことができ、よかった。視野を広げることができた。
- ・初めて聞く職業、専門家話を聞いて、一つ一つの企業の魅力が伝わった。

本年度、新たな取組として「お仕事体験塾」終了後に「中、高、大学生ボランティア」と出店事業者との交流会を開催した。その内容は、中、高、大学生が事業所の方から勤労観、職業観について直接聞く機会となり有意義な会となった。

以上の結果からボランティア交流会から次のような成果が認められた。

- 中、高、大学生にとってさまざまな業種との交流を通じて職業人として必要な資質や資格について学ぶことができた。
- ボランティアから柏崎の魅力を再確認し、愛着が高まった。地元で働きたいという意識が高まってきている。
- 学生の取組から、中、高、大学生と途切れのない人材育成へと一歩、前進できた。

VI お仕事体験塾 まとめ

お仕事体験塾の成果

6年間継続できたのは、本事業が「子どもたち・出店事業所・学校」にとってそれぞれ

有意義であったことによる。毎回開催後、具体的な取組内容についてアンケート調査を行い評価から改善を図っている。

実行委員会では事前に7回の会議を開催し改善点を明らかにしながら「出店事業所への働きかけ、運営面での改善、参加校への事前指導資料の配付」等に取り組んだ。児童アンケートでは、お仕事体験塾で出会った様々な業種や人々とのふれあいから、郷土への愛着と誇りを持ち「将来柏崎で仕事をしたい」91.0%の意識が育ってきている。その理由は、「柏崎には働きたい仕事がいっぱいあった。」「柏崎には優しく一生懸命に教えてくれる人や楽しく働いている人がいる」と答えている。

出店事業所アンケートでは、事業所間が連携して、さらに働く人々が一体となって、柏崎の未来を担う子どもたちを育てていこうとする意識の高まりが感じられた。特に、柏崎の未来の子どもたちを輝かせたいと願う事業所が格段に増えた。

学校の感想では、お仕事体験塾から子どもたちが働くことの意義を理解し、よりよく生きる基盤形成に役立ったと述べている。さらに、児童が将来の進路を考える態度や意志、意欲などを培うことのできる重要な意味付けとして活用が期待できる。

終わりに

平成26年第1回のお仕事体験塾では出店事業所が20であった。昨年45、本年49と出店事業所が徐々に増えてきている。お仕事体験塾実行委員会では、出店事業所を対象とした「説明会」を開催している。若者が柏崎市を離れていく傾向がある中、事業所が協力、連携して子どもたちに職業体験から職業観、勤労観を醸成し、郷土愛を育て未来の柏崎の活性化のために一緒に貢献しようと働きかけたことで意識の変化が見られた。

お仕事体験塾を通じて子どもたちは、柏崎には将来就きたい仕事があることや、柏崎には素敵な人がたくさんいることを知った。実行委員会では今後も「小学生お仕事体験塾」を継続させ、柏崎の「未来を担う人材育成」に寄与したいと考えている。

お仕事体験塾実行委員会

田中 有人	岸 剛史	山田 大介	岩間 一博	尾崎 直美	須田 和浩
山田 智	山崎 健太	牧 匡尚	前澤 佳奈子	小林 淑子	小野 和也
池田 弘	小田 麻由美	若林 勝	猪爪 拓也		

柏崎市教育委員会 学校教育課 担当：若林
電話：0257-43-9132 FAX：0257-23-0881